

(様式 7)

平成 29 年 8 月 10 日

人間社会学研究科長 様

審査委員会

主査 滝 知則 ㊟

副査 池永 正人 ㊟

副査 坂本 雅俊 ㊟

博士学位請求論文審査報告書および最終試験結果報告書

研究科名	人間社会学研究科	専攻名	地域マネジメント 専攻
学籍番号	1411D02	氏名	覃 建恩
論文題目	エスニック・ツーリズムと社会変容に関する研究 －中国南西部広西チワン族自治区の少数民族を事例として－		
学位論文概要と意義			
<p>当論文は、西部大開発の流れの中、中国広西チワン族自治区において行われているエスニック・ツーリズムに着目し、エスニック・ツーリズムが少数民族の文化にもたらす影響を明らかにしたものである。</p> <p>「第Ⅰ部 中国におけるエスニック・ツーリズム」では、中国の少数民族の現状を詳細に明らかにし、ついで、西南中国においてエスニック・ツーリズムがどう展開されているか、とりわけ少数民族文化がどのように観光に活用されているかを論述している。「第Ⅱ部 エスニック・ツーリズムと文化変容」では、広西チワン族自治区のエスニック・ツーリズムにおいて少数民族の祭りが、「疑似イベント化」していると指摘している。具体的には、銅鼓の取り扱い方、建築の様式、ならびに服飾文化が変化していること、さらに布努ヤオ族の祭りは宗教的意義を失い、伝統芸能へと変化しつつあることを考察している。</p> <p>上記の検討と、現時点までの観光開発が地方政府と観光企業に主導されてきたことを踏まえ、今後の観光開発には内発的な開発の取組が求められると主張する。</p> <p>中国の少数民族ならびに観光の研究成果は数多く存在するが、中国の少数民族の現状を観光との関わりから論じた研究は少ない。この点に当研究の意義が存在する。</p>			
判 定			
〔論文審査の結果の要旨〕			
<p>論文の文字数ならびに参考文献の質・量ともに、博士論文として適切である。現地調査は長期間にわたり複数回実施しており、正確かつ適切な日本語表現で論理的に議論を展開している。また、緻密で分かりやすい図表を多数制作したこと、的確な構図と被写体の人物や風景に共感でき</p>			

(様式 7)

る写真を活用したこと、中国語文献を日本語に翻訳して紹介したことなども、高く評価できる。

〔最終試験の結果〕

口頭試問において審査委員から、統計数値を用いた分析は、説明内容を明確にするために厳密にすべきであったことが指摘された。また、地域マネジメントの具体的な提言については、明確化が必要であることが述べられた。これらは当研究の瑕疵といえる。

一方著者は、民族アイデンティティの変容の程度が、少数民族の居住地に継続して暮らす人たちと、都市部に出稼ぎに行く人たちとで異なるという分析結果を述べた。これは、民族アイデンティティが変容している証であると判断できるが、民族アイデンティティの「変容」と「喪失」の混同が懸念された。しかし、著者はこの点を整理して論述していることを回答した。

博士学位請求論文審査および最終試験の結果 合格 と判断した。

※下線部に合格または不合格と記入して下さい。